

名友会かわらばん

Vol.1 春号 2009年3月1日発行

発行 村本建設(株)名古屋支店

名友会事務局



愛知県海部郡飛島村小中一貫校建設工事 現在：基礎工事施工中

名友会 発足趣旨

この会は、村本建設(株)名古屋支店安全協力会の会員会社の次世代を担う後継者や、将来の会社の運営を担っていくであろう方々が、個人として、企業としてそれぞれに抱える問題をお互いに共有し、村本建設と共に発展し成長していくために発足致します。

今後は、この会は夢を語り合う場として、安全協力会という枠にとどまることなく、建設業界の将来を見据えることができる集団として成長していくことを目指します。

- P.1 挨拶 村本社長様
支店動向 竹内支店長様
- P.2 活動報告
- P.3 建築情報・名友会ページ
- P.4 土木情報
- P.5 担当重役様特別寄稿

[1] あいさつ

平素は、村本建設の事業活動に御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、「名友会かわらばん」創刊に際して一言ご挨拶申し上げます。



村本建設株式会社
代表取締役社長
村本 吉弘 様

「名友会」は、次世代を担う後継者や、将来の会社運営を担っていくであろう若手の方々が、それぞれに抱える問題を共有することによって解決に向かって進み、互いに発展・成長し続けていくことを目的として昨年発足されました。今回この「名友会かわらばん」が創刊されるにあたり、会員相互および村本建設との情報共有の手段の一つとして、有意義なものになっていくことを期待しています。

皆様ご承知のとおり、現在、建設業界を取り巻く市況は、過去に類を見ない厳しい状況となっています。これは企業規模に関わらず、どの企業にも言えることです。このような環境の中で着実に経済活動を行っていくには、顧客や社会から確固たる信頼を得なければなりません。そのためには、安全への配慮を怠ることなく、常に品質の良いものを作り続けていかなければなりません。当社では今期、現場・営業といったフロントが最も重要であると考え、そこに全社の力を結集すべく、本社・支店のスタッフを含めた全社員に“自分達がフロントのためにできることは何か”を考えて行動するように言っています。同時に当社のみならず、この「名友会」を含めた協力会会員の皆様の力が不可欠となります。

この会の発足には、夢を語り合い、それに向かって進んでいく場であるという趣旨もあります。将来を担う皆様には、様々な悩みや考え、苦労や希望があると思いますが、この会を通じてそれらを大いに議論し合い、ともに成長していただきたいと思っております。同時に、幅広いネットワークを築いていくことで、将来の社業発展に大きな財産を得られることと確信しています。「名友会」がそのような活気ある会となり、当社も積極的に参加し皆様のエネルギーをいただくことで、当社自身も成長していきたいと考えております。この度の「名友会かわらばん」の創刊が、そのひとつのきっかけになることと大いに期待しております。

最後に、この荒波を乗り切るためにも、互いに切磋琢磨し、明るい将来を見据えてともに進んでいくではありませんか。

[2]支店動向

安全協力会並びに名友会の皆様には、日頃より名古屋支店の事業にご協力・ご尽力賜り、心より感謝申し上げます。

村本建設(株)名古屋支店は、全社の中でも開設44年という三番目に長い歴史を持つ支店であり、これもひとえに協力業者の皆様のご支援の賜物と重ねて御礼申し上げます。



村本建設株式会社
常務執行役員
名古屋支店長
竹内 了 様

私が歴史ある名古屋支店に着任したのは2年8ヶ月前、多少の不安と高ぶる高揚感を抱きつつ名古屋駅に降りた事を昨日の様に思い出されます。そんな私の気持ちも、支店社員、お客様そして協力業者の皆様とお会いし会話をしていく中で、不安は早々に希望に変わっていきました。

この2年8ヶ月を振り返りますと、談合に対する厳しい社会的批判、姉齒事件による耐震偽装問題、建築基準法の改正、アメリカ発のサブプライムローン問題に端を発する金融破綻、更には日本における

不動産市場の衰退と目まぐるしく社会情勢が変わりました。

私共 建設業界はそういった未曾有の経済不況の中、どのようにして生き残り勝ち抜くのかという大きな課題を与えられました。この課題を真正面から受け止め、立ち向かい、乗り越えることが出来る企業のみが生き残れる時代に入りました。

厳しい時代に成功の秘訣や特効薬は無いと思います。基本に立ち返り、『顧客の満足を得られる建物・建設物を提供する』という原点にまず立ち返るべきです。

私共にとって品質と安全と工程管理は、建設現場の三大管理と言われていています。顧客の要求、品質・安全・工程に対する眼は、常にレベルアップして向上しています。

品質は、設計図通りに施工したからといって顧客の満足を得られる時代ではありません。建設物の機能性はどうなのか？ 建設物のランニングコストはどうなのか？ 建設物のメンテナンスはどうなのか？ 等々様々な視点を持って施工する事を要求されています。

安全についても同様です。結果として事故災害が無かったから良かったという時代は終わりました。事故災害の手前にある危険の芽を摘み取る事を要求されています。

また、工程についても、顧客の事業計画に沿った工程管理が要求されます。

わが社の経営理念は『顧客とともに考え、顧客とともに創造し、顧客と満足を共有する。新しい時代の変化に機敏かつ柔軟に対応し、より大きな価値を顧客に提供する。』です。

常に私共社員一同は、この経営理念を実現すべくあらゆる課題に取り組んで参ります。

顧客の満足を得るためには、協力業者の皆様の経験と知恵と力が必要です。建設物一つを創り上げるのに私共 ゼネコンの力は一部であり、大半は協力業者の皆様の力です。

私共と協力業者の皆様方の経験と知恵と力を一つにして、淘汰の時代に立ち向かい勝ち抜けるよう共々頑張りましょう。

名友会が益々発展し、その中核として活躍していかれることを心より期待しております。

[3]名友会の活動報告・今後の予定

◇ 第1回勉強会 H20.7.11 メルパルク

メイン マ 会の発足趣旨の説明及びグループディスカッション

出席者 村本社長様・竹内支店長様・本社重役の方々他支店社員の方 18名

協力会会員 64名(懇親会は総勢100名)

◇ 第2回勉強会 H20.11.21 メルパルク 講師 労務コンサルタント 吉川 直子先生

メイン マ “人を雇う前に必要な本当のことを知るための勉強会”

社員を雇い入れる前に必要なことから退職時までの注意点、外国人研修生の受け入方

出席者 村本社長様・竹内支店長様・本社重役の方々他支店社員の方 18名

協力会会員 61名(懇親会は総勢100名)

終了後、懇親会を開き監督員の方もご出席いただき楽しく中身の濃い会を催すことができました。

今後の予定

21.4.17(金) 第2回総会・第3回勉強会 メルパルクにて

H21.5月9日 現場安全パトロール H21.7月12日 かわらばん発行

H21.11月 第4回勉強会

[4]建築情報(工法・災害事例・品質指導・安全パト状況など)



「名友会」に望み思うこと

村本建設(株)名古屋支店

建築統括部 工事長 前川 政 行 様

名友会“かわらばん”の創刊にあたり心よりお祝い申し上げます。また、協力業者の皆様には日頃より格別なるご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

この度は、“建築情報”の題目で原稿の依頼がありましたが創刊号となりますので“名友会”に望み思うことを少し書かせていただきます。

常々、工事事務所はひとつの企業であると思っています。工事を采配する人の進め方で、品質、安全、工期、利益が大きく変わる事があります。品質が悪ければ、災害、事故を起こせば、工期を守らなければ、利益が無ければ、これでは事業は成り立ちません、バランスが必要です。

協力業者の皆様は当たり前のこととして日頃、事業に取り組まれていると思いますが弊社の工事事務所職員も経営者でなければなりません。社会経済の好不調の関係ないこの基本中の基本を“名友会”とともに弊社工事事務所職員が学ぶ機会ができることをうれしく思います。

私は昨年6月に大阪工事事務所より名古屋工事事務所に転勤してまいりました。関西地区には趣旨同じくした会“共栄会”が先陣をきって活動しています。当時、彼らも試行錯誤でスタートしたと思いますが勉強会等の活動を重ね、今では“共栄会”は安全協会と並び無くてはならない存在になっています。

“名友会”の役員様方の積極的な行動を目の当たりにして必ず“共栄会”に優るとも劣らない会に発展することと思います。また、将来は名古屋支店だけにとどまらず、関西の“共栄会”、関東の“麹町21クラブ”と交流を深めて全国規模で村本建設とともに発展することを期待します。

最後に、“かわらばん”をお読みになった協力業者の皆様“名友会”の趣旨をご理解いただき勉強会等に積極的に参加して頂きたいと思います。よろしくお願い致します。

[5]名友会ページ(運営役員担当欄)

名友会 副会長 (株)前田商店 成田 正 浩

名友会会員の皆様方には、日頃より本会の活動に積極的に御参加頂き厚く御礼申し上げます。

さて、昨年から発足いたしました本会も2回の勉強会の開催を致し、順調な船出が出来ましたことを心から感謝いたしております。又、村本建設(株)の皆様方にも多大の御指導・御協力を頂きこの場を借りまして厚く御礼申し上げます。今回、最初の会報を発行する事が出来ますのも皆様方の御協力の賜物と感謝し厚く御礼申し上げます。

昨年の2月に第1回の設立準備委員会を開催してから一年が経ちましたが、会の名称から始まり

(P.4 下段に続く)



[6] 土木情報(工法・災害事例・品質指導・安全パト状況など)

「名友会かわらばん」発行にあたって

村本建設(株)名古屋支店

土木統括部 工事長 田所正己様

「名友会かわらばん」第1号発行に伴いお祝い申し上げます。また日頃より協力業者の方々には、工事に関して御協力御尽力賜り心より感謝申し上げます。

さて、現在の名古屋支店の土木工事は、愛知・岐阜・三重・静岡を主要活動拠点とし、国土交通省を始め各地方自治体及び公団等の官庁工事を中心とした工事の施工を行っています。具体的には、名古屋市のシールド工事では1次覆工（初期掘進）、静岡県 の橋梁下部工及び推進工事では本体工事前の段取り中です。これらの工事の工法説明及び今後の施工状況等につきましては、「名友会かわらばん」にて随時紹介させて頂く予定です。

昨年までの土木の災害状況は、設備の不良というよりも、職員及び作業員各個人によるちょっとした油断または危険予知意識の低下が大きな要因と思われます。そこで今年度は、第一にリスクアセスメントを取り入れた作業手順書や危険予知活動、及び送り出し教育の完全実施し、第二に「一声かけあい運動」を徹底し、第三に作業所職員及び協力業者の皆さんとのコミュニケーションを密にし、より良い作業所環境を目指して、職員含め各個人の安全意識の高揚を図りたいと思います。

昨今の厳しい受注競争及び経済不況の時代を乗り越える為には、より良い品質の建設物を顧客に提供しなければなりません。今後は先に述べた安全管理は基より、今まで培われた経験を十分に活用した仮設計画を、関係者全員により綿密かつ早期に立案して、品質及び工程管理の無理無駄を省く必要があります。また、新しい時代のニーズを敏感に把握し、柔軟に対応することも必要となります。これらは関係者全員の理解と団結なしには成しえませんが、今後とも御協力の程よろしくお願ひいたします。

(P.3名友会ページより続き)

手探りの状態でした。しかし第1回の勉強会の後、新しい役員の方を迎え皆様方が活発な意見交換をしていただき、会の運営にも活気が出てきていると感じ始めております。本会の目的でもあります、経営者・若手経営者・後継者と幅広い年代の交流を持つことにより、色々な側面から物事を考え、実行していく事で、さらに経営基盤を固めて生き残り発展していく会社造りに取組んで行って頂きたいと考えているところであります。

昨今の社会情勢は建設業界にとどまらず、製造業を始めほとんどの業界が非常に厳しい状況下の真っ只中にある現状を踏まえましても、村本建設(株)様の下の安全協会というお互い共通の立場のなかで、本当の意味での一致団結をして、共に未来を語り合えるような関係を作り、一步一步前進して行って頂きたいと心より願うところでございます。一人一人では出来ないことも、多くの人の輪が出来れば、厳しい現状も乗り切って行けるものと信じております。

最後になりましたが、まだまだ未熟な役員ではありますが、会員皆様方の御協力と御指導を頂き今後ますます名友会が発展して行くことを心より願ひましてご挨拶とさせていただきます。ご安全に。

名友会誕生

村本建設株式会社

常務執行役員

品質統括部長 中野 義博 様

平素は、弊社の事業活動にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度は「名友会」の旗揚げ誠におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

先日中野会長より原稿の執筆依頼をいただきましたが、常々思い続けていた事があり、一度皆様にお礼申し上げたいと思っておりましたので、まさに渡りに舟とばかり二つ返事でお引き受けした次第でございます。

14年ほど時代は遡りますが、名古屋で初めて現場を持った時の事を、今でも鮮明に覚えております。現場名は「アーバンラフレ小幡B工区建築工事」、現在のUR都市再生機構発注の賃貸住宅の新築工事でありました。

発注者側の工事担当者H氏は、なかなかの技術者で、辣腕をふるい担当する工事は全て優秀現場表彰を受けさせるという、すばらしい実績をお持ちの方でした。それだけに要求されるレベルは非常に高く、品質管理面では、施工プロセスの区切りをとにかく大切にして、各段階が完了する毎に自主確認と点検の正確な記録を確実に残す事を要求され、来る日も来る日もその繰り返しだった事を思い出します。竣工間際になると、完璧な自主検査を要求され、担当のH氏とともに、朝9時から夜の2時・3時まで現場を点検すると言う、今ではワークライフバランスの観点からは考えられませんが、こんな生活が1週間以上続きました。その結果 10,000項目を超える指摘事項に何とか対応して竣工検査を受けることになり、おかげさまで、無事竣工検査に合格し、おまけに優秀表彰まで受賞する事ができました。今から考えれば、たとえどんな検査官が来ようと、ありとあらゆる方向から検討し、完璧な品質を求めた品質へのあくなきこだわりの賜物であったと思います。がしかしそれはとりもなおさず、この時に、朝早くから夜遅くまで一緒になってご協力いただいた協力業者の皆様方のおかげだったと、一時たりとも忘れたことはございません。本当にこの場をお借りして、心より厚く御礼申し上げます。そしてその実績が、今もUR都市再生機構の仕事を受注できる布石になっていると確信しております。

この時の体験が、私にとって「人と人のつながり・絆」「品質とは」の考え方の原点になっています。

私は名古屋の地に転勤してきたのですが、このとき初めて、村本建設と協力業者の方々とは、どこの支店に行っても一体だ。と実感しました。

さて世の中は、大変厳しい時代に突入していますが、今こそ、この時代を切り抜ける最大の力は、皆様方のすばらしい培われた技術、そしてその証としての品質、そこから生まれる信頼。それこそが次につながる営業の最大の武器である。と確信しております。

私たちは、技術もスピリットも全ての事を、次の世代を生きる者たちに継承する義務があると思っています。そういった中で、「名友会」が誕生しました。この会が「人と人のつながり・絆」を大切にし、心を許しあえる友の集まりになり、ここへ来ればほっとする会でありながら、お互いが、それぞれの会社を超え問題を共有し、あるときは切磋琢磨して刺激しあっていく会になってもらいたいと思います。そのための援助は惜しみません。そしてこれからも未永く有意義な会に成長していけることを祈念いたしまして、私からのお祝いの詞とさせていただきます。

ス。シャルクス；名古屋支店 総務部 石黒部長様

東京支店 品統部 竹下直史様

編集後記；改めて“会の重み”と“おかげさまで”という

感謝と感動の気持ちを頂きました。 合掌

名友会会長 中野 泰至